



2018年1月9日

各 位

三重県保険医協会

運動の取り組みについて

平成29年11月16日、保団連中央要請行動が開催された。また、衆議院第1議員会館で「疲弊する医療・介護現場『診療報酬・介護報酬の引き上げを求める』11・16国会内集会」（ドクターズ・デモンストレーション実行委員会主催）が開催された。三重協会から宮崎会長、鵜飼副会長、梅村理事が参加した。

来年の医療介護同時改定の攻防が続く中、ドクターズ・デモンストレーション実行委員会主催で報酬引き上げを求める集会に参加した。財務省は2%以上のマイナス改定を打ち出す中、これ以上の引き下げは現場の疲弊をもたらし、スタッフの給与引き上げや新しい設備投資もままならないことは明らかである。集会では、医師の長時間労働、保険で良い歯科医療の充実、看護師の大幅増員、歯科技工士の生活安定など現場からの発言が続き、最後に「引き上げを求める」集会アピールを採択した。参加者は、全国から32協会153人の参加があり、自民、民進、立憲、共産の各党、無所属の議員16人が連帯と激励のあいさつをした。総選挙後初めての集会ということもあってか国会議員の参加はいつもより多かったように思う。

集会の前後には、いつもどおり三重県選出を中心とした衆参の国会議員に要請を行い、会員の皆さんから頂いた報酬引き上げ要請の会員署名を手渡した。岡田克也氏（三重3区・無所属）と田村憲久氏（三重1区・自民）には直接本人に要請した。両人とも根拠のない医療費削減には明確に反対しており、特に田村氏は、保団連会長の住江先生も同席する中「マイナス改定には反対である。せめて本体引き上げがなければ医療機関の経営はますます厳しいものになる」との認識を示された。岡田氏とは医科病院勤務医の過酷な労働環境、歯科の厳しい現実などについて懇談し、特に在宅訪問で潜在的な歯科の需要は多く、それを拒んでいるのが診療報酬の問題であるということを説明した。

（三重県保険医協会副会長・鵜飼伸）

以 上